

2020年11月9日

2040年までに使用電力の再生可能エネルギー100%化を目指して キリングroupが RE100 に加盟

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、2020年11月9日（月）に電力の再生可能エネルギー100%化を目指す企業で構成される国際的な環境イニシアチブ「RE100」へ加盟しました。2040年までに使用電力の再生可能エネルギー100%化を実現します。



当社は、本年2月に社会と企業のレジリエンス強化へ向けた新たなビジョン「キリングroup環境ビジョン2050」を策定しました。気候変動においては、2050年までにバリューチェーン全体のGHG^{*1}排出量ネットゼロを掲げています。本件はこの取り組みの一環であり、当社が脱炭素社会構築へ向けてリードしていくよう、取り組んでいきます。

※1：温室効果ガス

当社は、「2030年までに2015年比で、グループ全体のScope1とScope2の合計を30%、Scope3についても同じく30%削減する」という高い目標を掲げ、2017年にSBT（Science-based Targets）^{*2}イニシアチブ（SBTi）^{*3}の承認を取得しています。徹底した省エネ活動に加えて、燃料転換の実施、ヒートポンプの導入、太陽光発電や風力発電、水力発電由来の電力の活用、および排水処理設備から得られるバイオガスを利用した発電などの再生可能エネルギーの活用、容器軽量化や共同配送を含むバリューチェーンでのGHG削減の取り組みなどを進めています。さらに、本年6月には「Business ambition for 1.5°C」に署名しました。これは長期的なGHG排出量ネットゼロの実現に向け、中期的なGHG削減目標を上方修正することを表明するものです。2020年中にこの新たな目標に対して、SBTiの承認を取得する予定です。

また、2018年には「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD^{*4}）」提言に、日本の食品会社として初めて賛同を表明し、シナリオ分析など情報開示を積極的に行っています。

※2：パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準（Well Below 2℃）に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

※3：2015年にCDP、国連グローバルコンパクト、世界資源研究所およびWWFの4団体で設立されたイニシアチブ

※4：The Task Force on Climate-related Financial Disclosuresの略

RE100への加盟にあたり、各事業拠点における再生可能エネルギーの導入を加速させ、2040年までに使用電力における再生可能エネルギー100%による事業運営を目指します。

今後もキリングgroupは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンにかかわるすべての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。

<参考>

・キリングgroup環境ビジョン2050

<https://www.kirin.co.jp/csv/eco/mission/>